

人生の最終段階における 医療・ケア決定プロセスに関するガイドライン

- 「人生の最終段階における医療・ケア決定プロセスに関するガイドライン」は、本人の意思を最大限に尊重するために、医療・ケアチームが合意を形成する意思決定支援プロセスである。話し合いのスタンスとしては、パートナーリズムでもなく、情報提供型でもなく、「Shared Decision Making: 相互参加型モデル」が推奨されている。本人の意思が確認出来ない場合は、事前指示やACPについて確認の後、本人の意思を推定する家族等と共に、医療・ケアチームは、本人の推定意思を尊重し最善の方針をとることとなる。

人生の最終段階における 医療・ケア決定プロセスに関するガイドライン

- 「人生の最終段階における医療・ケア決定プロセスに関するガイドライン」における意思決定を行う上で倫理的な規範から見た根拠としては、「自立尊重の原則」・「与益最大化の原則」・「不加害原則」・「正義・公正原則」の4つの倫理原則に基づいており、これらの原則に基づく意思決定支援のあり方は、最善の選択を行う上で重要な根拠となる。
- 医学的最善が本人の最善とは限らず、医学的に無益が本人に無益とは限らず、本人の選考が本人にとって最善の選択肢では必ずしもないことに留意する必要がある。

江澤理事長様

紙パンツを自分で履かれて患者さんの気持ちを体験された話は感動しました。
私は初めて履いた時は悔しくて辛くて洗面所で家内と号泣しました。
この悔しさ辛さ屈辱感は体験しないと気持ちにはわからないと思います。

今の私の目標は、私の故郷香川県仁尾と第二の故郷宇部に帰る事です。
必ず奇跡を起こします。そう信じて毎日頑張っていこうと思います。

医療秘書を目指していた娘が、就職が決まりました。
生きる選択をして良かったと思える一つになりました。

目からウロコ!

医師のための 介護体験実践講座



“尊厳を保障する”自立支援の実現にむけて
～介護の理論と実技の画期的手法～

理念・情熱
知識と技術

自立を支える
三大介護

設計・建築
福祉用具の秘訣

講義後に介護実技を学んでいただきます。
＝ ご家族の介護にも“即”役立つ必見の講座です!! ＝

日時 平成29年1月15日(日) 10時～15時 (受付9:30～)

参加費 無料 (昼食希望の場合は実費。1,000円程度)

場所 倉敷スイートホスピタル (倉敷市中庄3542-1)

内容 10:00～11:00 講義1 講師：江澤 和彦 先生
(岡山県医師会 理事)
11:00～12:00 講義2 講師：上野 文規 先生
(介護総合研究所「元気の素」代表)



全国を講演と実技指導で飛び回る傍ら「ひと・もの・はこ」をテーマに総合プロデュースを多く手がけ、介護親そのものを根本的に変える活動を行っている。遊びリテーションの第一人者としてもご高名。

12:00～13:00 休憩

13:00～15:00 介護実技実践 *準備物品等は申込後お知らせいたします。

平成28年度地域医療介護総合確保基金事業

日医生涯教育講座

4単位 (CC13, CC19, CC29, CC81)

主催：岡山県医師会

お問い合わせ先

公益社団法人 岡山県医師会事務局 TEL:086-250-5111

【参加申込書】

介護体験実践講座

FAX:086-251-6622

*複数名ご参加の場合は、
申込書を印刷してご使用ください。

ご芳名

医療機関名

ご連絡先

昼食申込
有・無

医師もおむつや介助

「する側」「される側」体験講座

医師がおむつをはいて入浴介助。高齢者医療や訪問診療に携わる医師に介護する側、される側の立場を体験してもらうユニークな講座に、県医師会が取り組んでいる。介護の実情を知ってもらい、医療と介護の連携強化につなげる狙い。県医師会によると、全国でも珍しい試み。(大橋洋平)

「こつをつかめば重度 指導で説明した。の要介護者でも1人で介助できます」。1月中旬、倉敷市内の高齢者施設。講師の介護総合プロデューサー上野文規さん(58)が、1人用浴槽を使った入浴介助の実技

医療、介護連携強化へ

に、上野さんが「今までが考えなすぎだったんです」と指摘する場面もあった。患者の尊厳に配慮した自立支援に向け、医療者にも介護の視点を持ってもらおうと県医師会の江澤和彦理事(55)が企画した。この日のメニューは江澤理事、上野さんの講義と、介助実技の2本立て。医師たちは休憩を挟み約7時間、紙おむつを着用し、おむつ内での実際の排せつ、おむつ交換をせずに長時間放置した



医師たちを前に入浴介助を実演する上野さん(中央)

場合の感触も体験した。

「介護は知らないことだらけと痛感した。今回の経験を訪問診療に生かしたい」と、参加した小谷医院(和気町)の小谷重光院長(57)。

講座は県の助成を受けて実施し、県医師会は2017年度以降も開講したい考え。医師でもある県医療推進課の則安俊昭課長(55)は受講後「医師には患者の尊厳や介護者の負担軽減への配慮が求められるだけに、貴重な機会になった。医療、介護の連携促進の一助となつてほしい」と話した。

2017年3月6日(月)
山陽新聞



体にまひがある人を風呂に入れる際、横身、わかな動きの違いで、介護される側の体が不安定になると、医師たちは型紙を渡していた。

岡山県医師会（岡山市北区駅元町）は1月15日、医師が介護する側、される側を体験する、全国でも珍しい実践講座を、倉敷スイートホテル（倉敷市中庄）で開催した。高齢の在宅患者と関わることも多い開業医師ら15人が、患者や介護者の気持ちを体感した。

県医師会では江澤和彦理事（倉敷スイートホテル理事）を中心に、高齢者が住み慣れた地域で最期まで暮らせる「地域包括ケアシステム」の構築に向けて研究を進めている。システム構築には、医療と介護分野が連携を深めることが欠かせないことから、医師たちに介護の実態とその重要性を学んでもらおうと、講座を企画した。

「スキャナ方法を指導する介護総合研究所「元気の基」の上野文規代表が指導した。車椅子への移動やベッドでの寝返り、入浴など、介助が必要なさまざまな場面が設定され、医師たちは患者役と介護者役の両方を体験。要介護者の頭を下げ前傾姿勢にしてから立ち上げさせるなど、人間の自然な体重移動を手助けする動きを繰り返し練習した。

自身も介護技術を学び、経営する病院で医療と介護の一体的な提供に力を入れている江澤理事は「医療と介護は、人々の生活を支えるために切り離せない。今後、医師に介護知識を広め、岡山県全体で取り組みの輪を広げていきたい」と語る。

（笑根美紀子）

医師のための介護体験 岡山県医師会が講座

移動や寝返り、入浴 双方の気持ち体感



体を無理やり引き上げるなど、やっばい介助方法も体験。永瀬内科医院（岡山市）の永瀬西副院長は「慣れない介護は、するのにも怖いという感覚を味わった。いつでも介護士が身近にいるわけではないので、医師にも知識が必要だ」と話した。



要介護者の体重移動を利用して、負担が少なく移動させる方法を体験。旭川荘療育医療センター（岡山市）の横山正司医師は「周回の介護スタッフを見て大変さは理解していたつもりだが、実際にやってみるのは思った以上に難しい」。



紙おむつを履いて講義を受ける医師たち。「併せつにも挑戦して」という条件だったが、小倉医院（和気町）の小倉重光院長は「やるうとしたが、心理的な抵抗感が強くて無理だった。患者さんが嫌がる気持ちが分かる」。



体にまひがある人の寝返り介助について、上野代表（左前）から指導を受ける医師たち

NBMの実践

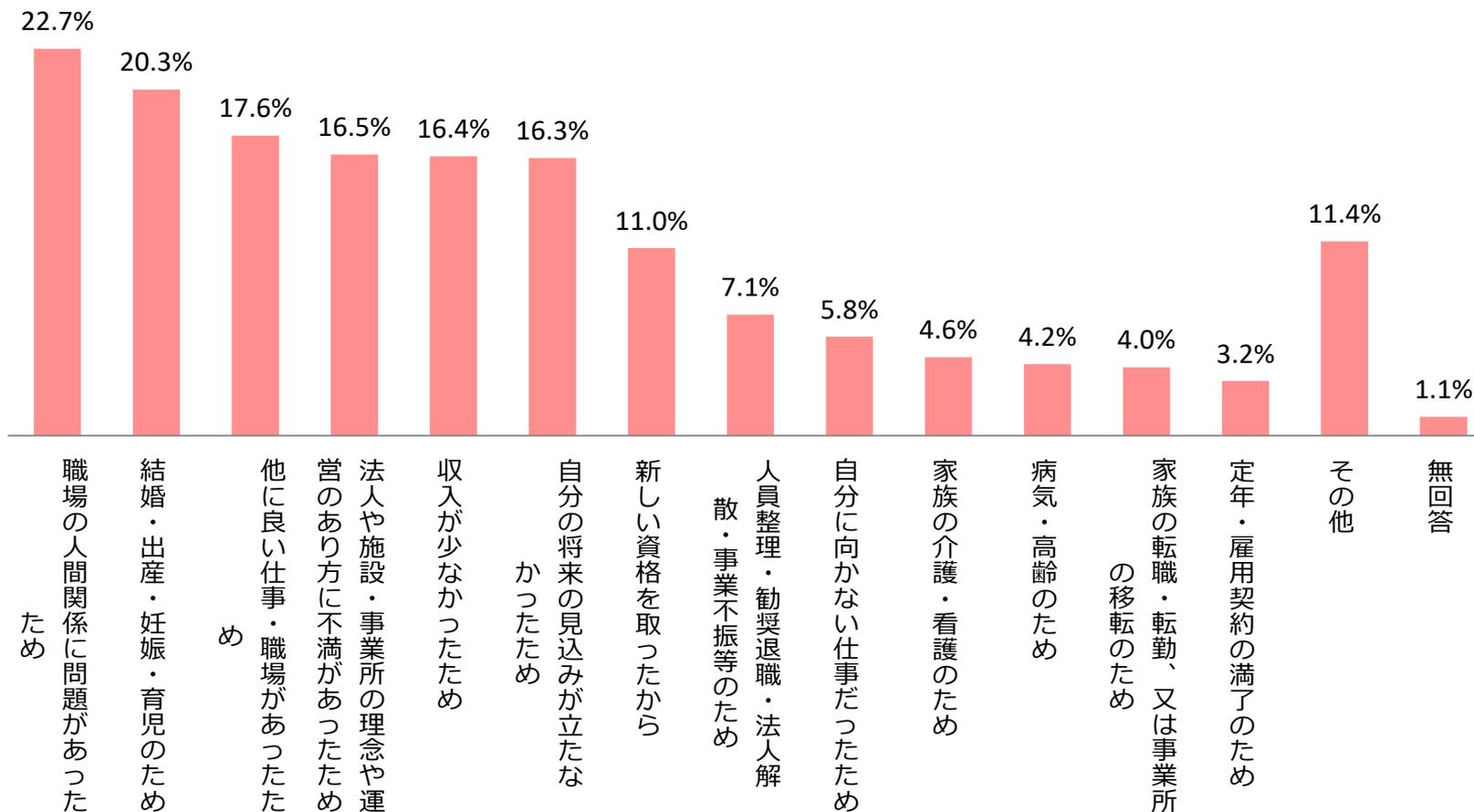
● ナラティブシート

● ナラティブノート

● ナラティブアルバム

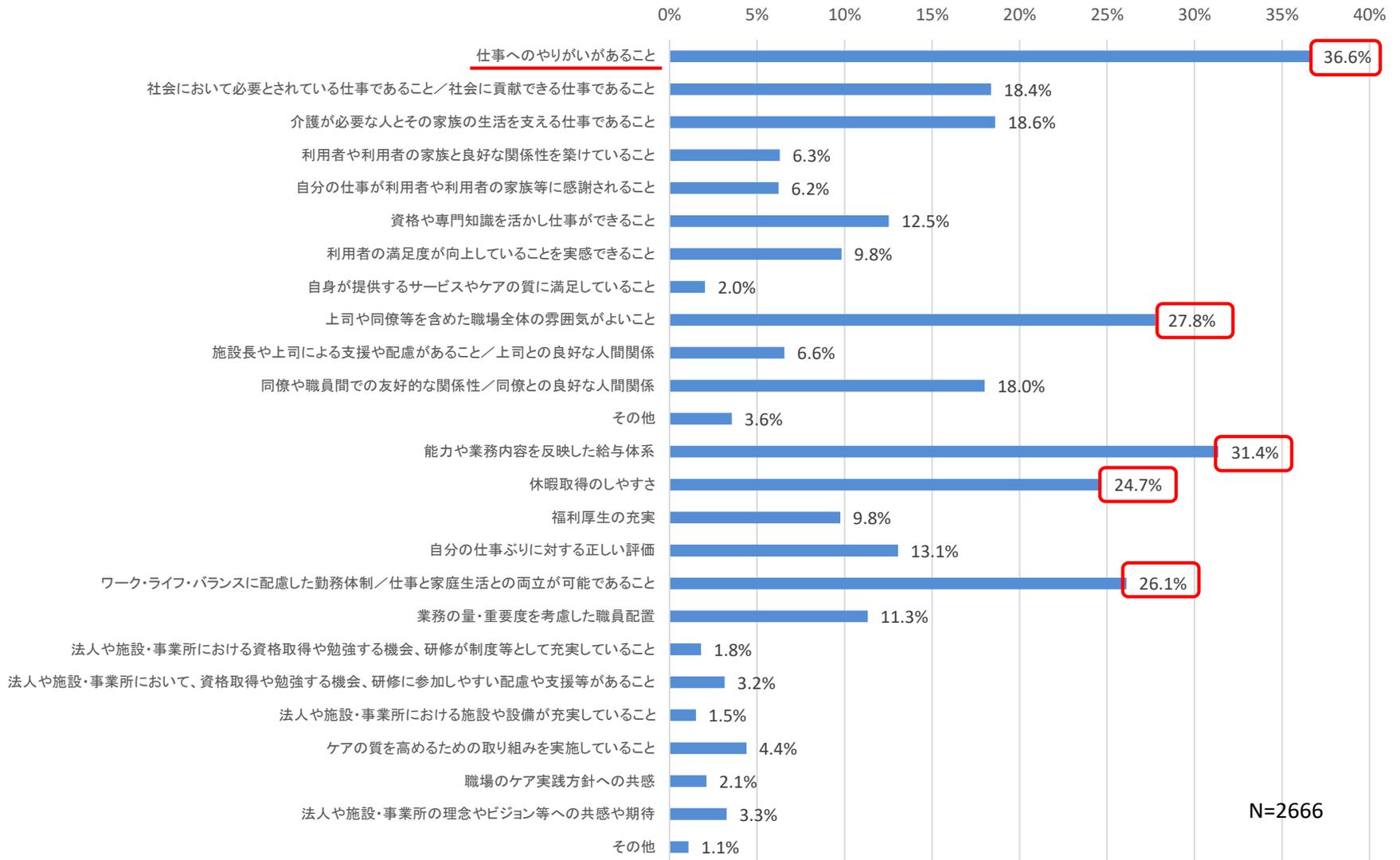
前職の仕事をやめた理由（介護関係職種：複数回答）

- 介護関係職種が退職を検討するきっかけとして、
- ・ 上位に、「職場の人間関係」や「法人・事業所の理念や運営のあり方」に対する不満が挙げられるとともに、
 - ・ 「収入が少なかったため」という理由をあげている割合が16.4%となっている。



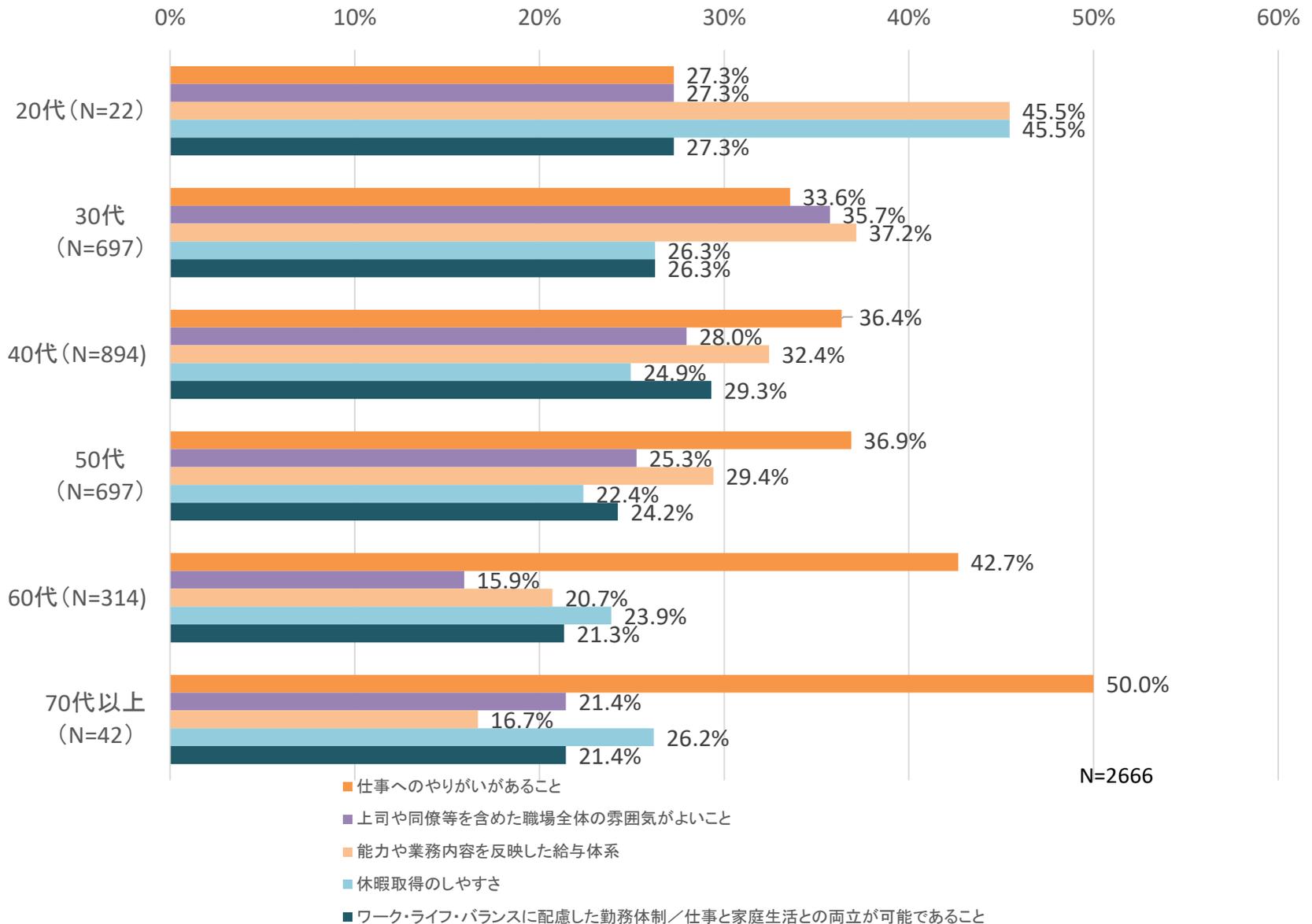
※前職の職種について「介護関係職種」と回答した人を対象に前職の離職の理由を調査。
【出典】平成30年度介護労働実態調査（(公財)介護労働安定センター）

勤務継続にあたり、重要と思うもの 上位3つ【全体】



(注) 令和元年度老人保健事業推進費等補助金「処遇改善加算の申請等の簡素化に関する調査研究事業」(株式会社三菱総合研究所)を基に作成
勤続10年以上の者に対して調査

勤務継続にあたり、重要と思うもの 【年代別】



(注) 令和元年度老人保健事業推進費等補助金「処遇改善加算の申請等の簡素化に関する調査研究事業」(株式会社三菱総合研究所)を基に作成
 勤続10年以上の者に対して調査

尊厳ある生活の保障

- 集団的流れ作業→個々の生活づくり
- その人らしくない(非人間的な)行為の撤廃

経管栄養 → 経口食 → 豊かな食

オムツ → トイレ → 快い排泄

特 浴 → 個 浴 → 楽しい入浴

どうしてもやむを得ず強いる時には、明確な
基準と最大限の改善の努力を！ ⇒ 人権問題！

尊厳の保障へ向けて

好き好んで病気や障害をきたしている人はいるはずもなく、誰もがその人にとっての本来の普通の生活を望んでおり、その生活の実現すなわち尊厳の保障を実行することが我々の役割である。

ご清聴ありがとうございました

